

会員店舗の商品開発等を支援する豊中市小売商業団体連合会、平成27年度(2015年度)から調理・製菓コースを開設して実践的な教育に取り組む梅花高等学校、そして就航都市の周辺自治体に協力して地域活性化を支援するJALグループの株式会社ジェイエア。この三者が連携して、豊中オリジナルの洋菓子を新たに開発した「Toyonaka Sky Sweetsプロジェクト」をご紹介します。

Toyonaka Sky Sweets

女性8人のプロジェクトチーム

平成27年9月に発定したプロジェクトでは、豊中市小売商業団体連合会会員店舗「お茶処吉田」のパーティシエ辻村聖さん、梅花高等学校の生徒4人、株式会社ジェイエアの客室乗務員3人の女性8人がメンバーとなって進められました。商品コンセプトから、味、形状、色合いにいたるまで、「豊中」「空港」をキーワードにアイデアを出し合い、試作品づくりを繰り返しました。同年11月に開催された「よなか産業フェア」では、試作品を展示して、来場者の声を数多く聞くなど、より完成度の高い商品をめざしました。

豊中産イチゴを使う

商品化にあたってメンバーが「だつたのが、豊中産の食材を使つこと。各方面から情報を集めた結果、今も市内で栽培されているイチゴを使つことにしました。そこで原田南でイチゴを栽培している西本健一さんの協力を得て、平成28年5月にメンバー自らイチゴを収穫し、ドライストロベリーとジャムに加工して、生菓子と焼き菓子の両方に使えるように準備しました。

(梅花高等学校 プロジェクトメンバー)



異色のコラボによるスイーツ開発プロジェクト



メンバーの思いが形に

商品パッケージや商品説明書もメンバーでアイデアを出し合いました。梅花高等学校の奥美奈子さんが描いたイチゴの絵を使った商品説明書には、メンバーの紹介や商品ができるまでのストーリーがつづられています。

メンバーの思いがこもったスイーツ「Strawberry Much」は、10月15日の市制施行80周年記念式典で初お目見え。「お茶処吉田」での販売やJAL大阪駅前のルクアでも催事販売がはじまるなど、一年間にわたるプロジェクトが形になつて次なるステップに向けて羽ばたきます。



【Berry much Cookie】
豊中産イチゴジャムをサンド。

梅花高等学校と
株式会社ジェイエアのイメージを形に

Strawberry Much



【Berry much Pound】
縦方向にカットすると豊中産イチゴフレーバーの
ワニが現れます

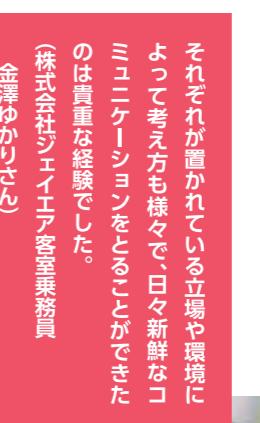
商品説明書にスイーツの
特徴をつづっています



【豊中産イチゴ】
かつて豊中市では、勝部、原田、桜谷など大正時代の終わりから、いちご栽培が盛んに行われていて、現在でも空港近くの勝部、原田地区などで「宝交早生」という品種が栽培されています。果肉が柔らかく一般流通に向いていませんが、糖度は高く、甘く酸の風味が特徴です。空中で育まれ、飛行機を見て育ったいちごのお菓子をお楽しみください。

商品のコンセプトづくりから、イチゴの加工作業まで、いろんなことを知り、自分がつくるときにも、人に食べてもらうことをつねに考えてつくるようになりました。

(梅花高等学校 プロジェクトメンバー)



それが置かれている立場や環境によつて考え方も様々で、日々新鮮なコミュニケーションをとることができたのは貴重な経験でした。
(株式会社ジェイエア客室乗務員
金澤ゆかりさん)

このプロジェクトは、大阪国際空港を拠点にJALグループの地方ネットワークの主翼を担当当社が、地域に密着し応援する企画としてまさに実現したかった取り組みです。
(株式会社ジェイエア業務部
貰取恭平さん)

